



ごあいさつ

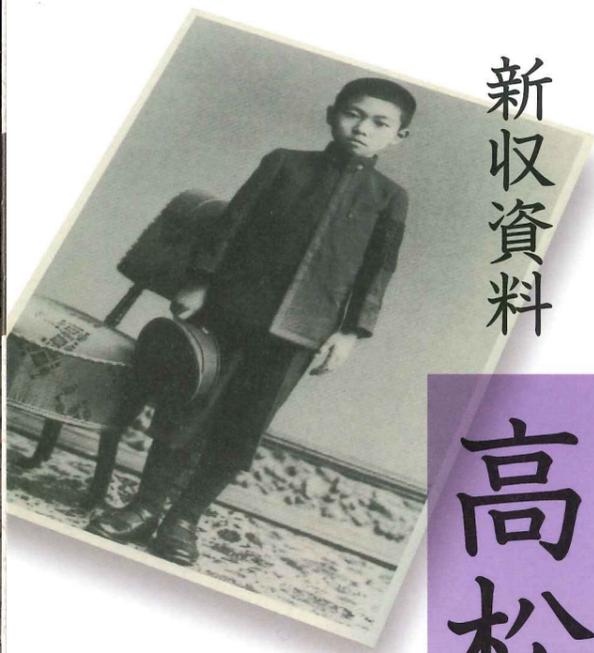
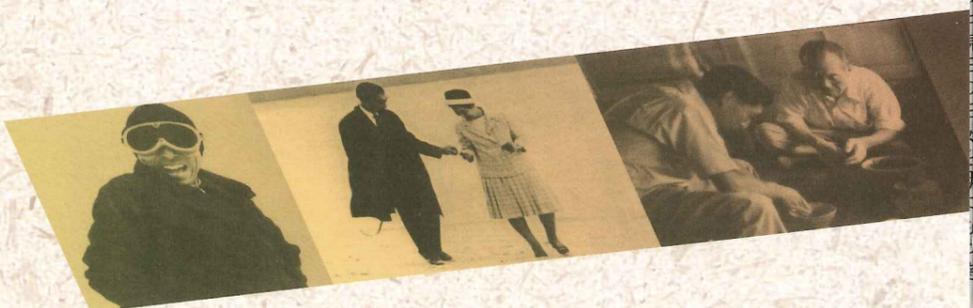
学習院大学史料館の収蔵資料は、古文書、古写真、古写真、考古遺物など多様なものから構成されています。そのなかには皇族・旧華族からの寄贈品も少なくありません。これは、学習院が皇族・華族の教育施設として創立したこと、戦後私立大学として再出発したのちも、戦前からの貴重な資料を学術的な立場から保存・研究してきたことに由来します。

本展覧会では、当館が収蔵する多様な資料のなかから、学習院の歴史と深いつながりのある高松宮家資料を紹介します。高松宮宣仁親王は、関東大震災のち精力的に慰問に出かけます。その際、被災した学習院にも訪れ、貴重な資料を多数寄贈しました。それらは学習院の地理歴史科の教材として活用され、今日では入手困難な学術的価値の高い資料として、学内外から多くの注目が集まっています。

近年、当館は高松宮家から身の回りの品を中心とした資料の寄贈を受けました。高松宮の少年時代や母校学習院に関するこれらの資料は、宮家の生活に密着した道具であるため、これまで展示などにあまり活用されることはありませんでした。

学習院の歴史と宮家の生活に焦点を合わせたこの展覧会を通じて、これらの資料の魅力を感じていただければ幸いです。

平成19年4月 学習院大学史料館



新収資料

高松宮家展

学習院大学史料館 第27回特別展



1 皇族に生まれて

宣仁親王（光宮）は、宮中の慣例にならない、生後10カ月で母宮と離れ、二人の兄宮（迪宮・のちの昭和天皇、淳宮・のちの秩父宮）と共に赤坂御用地内皇孫仮御殿で過ごしました。そこでは最新の保育、体力増進のためのお稽古など、さまざまな教育がなされました。幼少期の光宮の性格は「はにかみや」で、外遊びよりも内遊びが好きなお子でもでした。また「小さなもの」を集めることも好きで、幼少時に作られたスクラブ帖も残っています。



2 学習院での生活

明治42年（1909）4月、4歳となった光宮は学習院女学部附属幼稚園へ入園しました。幼稚園には週2日通い、残りの4日は皇孫仮御殿内の一室で保育を受けました。同44年には学習院初等科（四谷）へ入学し、兄宮とともにランドセルを背負って、赤坂から徒歩で通学しました。当時の学習院長は乃木希典で、「寒中でも水で顔を洗え」など質実剛健の教育が実践されていました。どちらかといえば、図画・唱歌などよりも、体を動かすことや地理・歴史・算術が得意でした。



3 母校へのおくりもの

大正6年（1917）に目白の学習院中等科へ進学。他の皇族は別寮（現学習院大学東別館）に寄宿しましたが、高松宮は二頭立馬車で赤坂より通学しました。柔剣道などの武課も加わった中等科の科目の中では英語を得意としました。ゴルフ、スキー、カメラ、謡曲など趣味も多彩で、充実した学生生活を送りました。同9年、中等科3年修了後に海軍兵学校予科へ入学。江田島（広島県江田島市）での訓練生活中に関東大震災がおこったため、高松宮は被災した母校へ、それまで



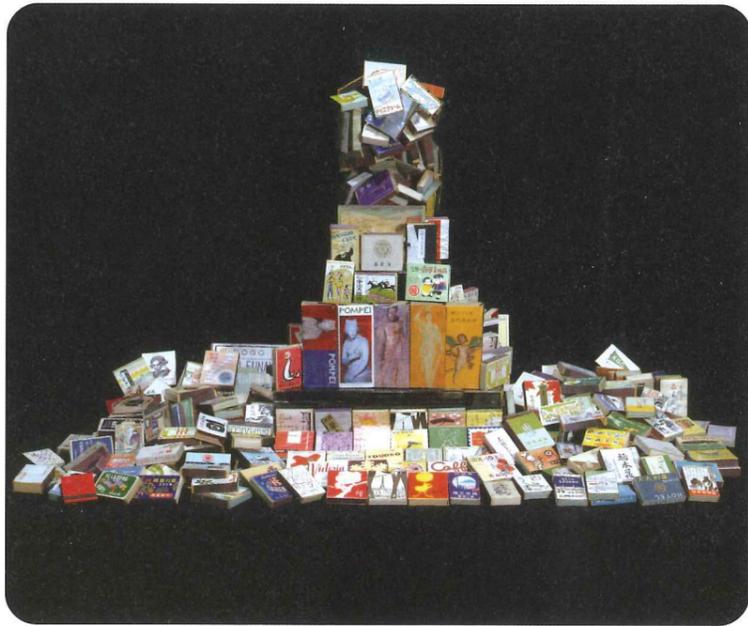
高松宮家について

高松宮宣仁親王は、明治38年（1905）に大正天皇の第三皇子として誕生しました。幼称光宮、お印は若梅。同44年に学習院初等科入学、大正9年（1920）中等科を3学年修了で退学し、海軍兵学校予科に進みました。同14年海軍少尉、昭和17年（1942）海軍大佐。大正2年7月、天皇より「高松宮」の宮号を賜り、有栖川宮家の祭祀を継承。これは当時、有栖川宮家には継嗣がなく、いづれ家が絶えるためでした。「高松宮」は有栖川宮の旧称で、有栖川宮の第三代幸仁親王（1656〜1699）までが称した宮号です。このような有栖川宮家との関係により、高松宮は、有栖川宮威仁親王の王女を母にもつ徳川喜久子（徳川慶喜孫）と昭和5年に結婚しました。

高松宮は、率直・誠実かつ気さくな人柄で、関東大震災の慰問にみられるように、戦前から社会福祉事業に取り組んでいました。また、50年以上にわたりバスケットボール協会総裁を務め、漆器・刀剣など美術工芸関係の団体に関与するなど、スポーツ・芸術の振興に熱意がありました。ゴルフ・スキーを好んだことはよく知られていますが、このほかにも小さなものを収集する趣味があり、切手、コイン、マッチのラベルなどを集めていました。

昭和62年（1987）2月3日、肺癌により薨去。

没後、大正10年から昭和22年まで書かれた高松宮の日記が発見され、高松宮妃の意志により『高松宮日記』（中央



本展の開催にあたり、次の方々にご協力をいただきました。
深く感謝の意を表します。

(敬称略)

徳仁親王殿下・(財)高松宮妃癌研究基金
上野の森美術館・(株)梅沢
岡田茂弘・笠松 巖・佐藤 進

撮影/高久良一

文責/長佐古美奈子(1・2・3・4)・野尻泰弘

敬称・敬語等は省略させていただきました。ご寛恕の程お願い申し上げます。

学習院大学史料館 第27回特別展

新収資料 高松宮家展

- 主催 学習院大学史料館
- 協力 (財)高松宮妃癌研究基金
- 会場 学習院大学史料館展示室(北2号館1階)
- 会期 2007年4月7日(土)~6月9日(土)
- 開室時間 平日12:00~17:00(土曜日10:00~12:00)

〒171-8588東京都豊島区目白1-5-1
TEL:03-3986-0221(代表) 内線6569

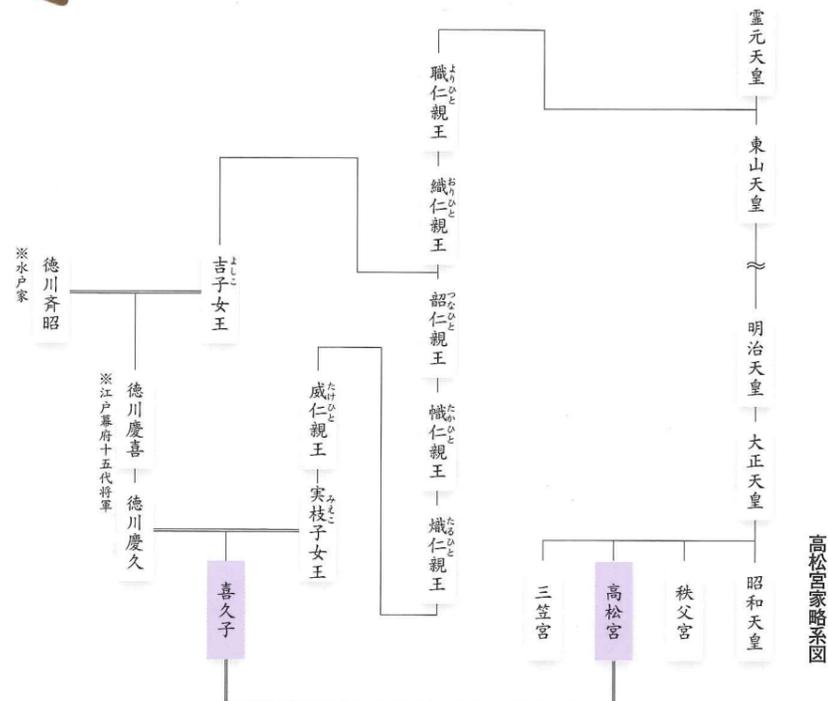
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

4 思い出のかけら

に集めた絵葉書・写真帖などを寄贈しました。兵学校卒業後は海軍士官となり、遠洋演習時に献上された品々を引き続き学習院へ寄贈しています。



太平洋戦争後、高松宮は社会的な活動を積極的にを行い、数多くの団体総裁・役員をつとめました。そのなかには、「高松宮記念」として現在も継続しているものもあります。高松宮には「スキーの宮様」としてのイメージが強くありますが、スポーツだけでなく様々な文化団体にも関与していました。これらの活動中に受領されたメダル・バッジは、戦前からのものを含めて1000点近くへのぼり、その広範な活動を物語ります。また各地へ行啓の際に収集した2000点を超えるマツ子箱・700点近いパンフレット類なども残されており、その足跡と人柄を偲ばせるものとなっています。



公諸社 1995年)として千行さ
ました。